

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：ナーサリールーム ベリーベアー鷺沼	種別：認可保育所
代表者氏名：阿部章子	定員（利用人数）：90名 （利用人数：84名）
所在地：〒216-0004 神奈川県川崎市宮前区鷺沼3-5-2 MCビル	
TEL：044-948-7941	ホームページ：https://www.ness-corporo.co.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社ネス・コーポレーション	
職員数	常勤職員：21名 非常勤職員：5名
専門職員	園長：1名 保育士：18名
	保育補助：1名 看護師：1名
	栄養士：3名 調理師：1名
	用務：1名
施設・設備 の概要	保育室：5室 トイレ：園児用3箇所・大人用2箇所
	休憩室 調理室：1か所
	事務室：1室 シャワー室
	絵本室 大ホール
	ロッカー室 バギー置き場
	園庭：なし

③ 理念・基本方針

「保育理念」

- ・子どもの生命の保持と人格の尊重を第一と考え一人ひとりの個性と可能性を大切にふんだんな愛情を持って健全な心身を育てる
- ・子どもの安全面について細心の注意を払い安全性を重視した環境作りを行う
- ・保護者や地域との連携を密にし理解と協力を得ながら、的確な保育ニーズの把握に努め子どもと保育者にとってより良い保育を目指す

「保育方針」

子どもの思いをあたたく受け止め、心の安定と信頼関係を深めながらていねいに関わり、健やかな心身と豊かな人間、社会性を持った子どもを育てる
十分に養護のゆきとどいた、安心してのびのび遊べるあたたかい環境の中で子どもが主体的に取り組めるように援助しながら、将来をたくましく生き抜くバランスのとれた心と体づくりををする。

「保育目標」

心身ともに健康な子ども 思いやりのある子ども すすんで活動する子ども 感性豊

かな子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

・子ども達が主体的に活動できるように子ども達の中に生まれるコミュニケーションや話し合いを「子ども会議」と呼び自分の気持ちを表現することを大切にしています。職員は子ども達の指導をするのではなく、気持ちに寄り添い「子ども会議」が活発に行われる場を作っています。

子ども達が主体となり様々な行事が行われています。

・子どもが様々な経験ができるように多様なカリキュラムを実施しています。リトミック、体操、英語、習字を使ったかきかた教室、など講師を招き興味の幅を広げていくようにしています。また、おはなし会では毎月一回読み聞かせのボランティアの方がいらして絵本の読み聞かせ、わらべうた、素話を年齢ごとに楽しませてくれています。絵本の貸し出しも月1回行い保護者と共に絵本の世界を楽しめるようにしています。絵本の蔵書も多数で興味や想像を広げていくことができます。

・人材育成の取り組みとして専任の講師を招き入れ継続的にルーキーサポート（新人研修）施設長研修、主任研修を行っている。社内研修は様々な方面の学びができるように年間を通して日程や内容を決め講師を招き行っている。また、宮前区や神奈川の外部研修にも積極的に参加しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年7月1日（契約日） ～ 令和6年3月8日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2018年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1) 図書環境の充実

各保育室や廊下などに年齢ごとに取り出せる高さに絵本を用意し、いつでも子どもたちの目に触れ、未知への興味がそそられる図書環境にしています。気に入った本は貸出しており、家庭でも絵本の中の世界観に浸り、親子のコミュニケーションがさらに豊かに楽しめ、保護者支援にもつなげています。月1回、ボランティアによる「絵本の読み聞かせ」を行っていますが、読み聞かせだけでなく、発達年齢に合わせた「素話」（絵本やイラストなど何も使用せず、お話のみ）で、子どもたちの想像力・創造力、集中力、語彙力を高め、友達との会話による意思表示が楽しめる保育を行っています。

2) 食に関わる豊かな体験をしています

年齢別に年間食育計画を作成し、1歳児から果物や野菜に触れ、食育活動に力を入れています。柚子の香りを嗅いだり、野菜スタンプ、ミカン湯、おにぎり作りなどを実施し、子どもたちが食に興味を持てるように取り組んでいます。苦手な子が多い食材を種から育てることによって、食べてみようという前向きな気持ちを育む工夫をしています。食育の様子はアプリで配信したり、給食だよりで保護者に伝え、食の大切さへの理解を得ています。食事の時間は机を囲み、子どもたちが会話をしながら楽しく食べる雰囲気大切にしています。食器は丁寧に扱うことを知ってもらうために特注の陶器を使用しています。

3) 職員一人ひとりに合わせた研修の受講ができています

法人の中・長期計画には、人材育成について「職員一人ひとりに合わせた資質向上を図る」としています。職員の教育・保育の質の強化として、一人ひとりの知識・技術

水準・専門資格の取得状況などを把握し、それにもとづく教育・研修の機会を数多く設けています。法人主催のルーキー研修、施設長研修、主任研修など、階層別研修の機会を設け、特に必要とされる階層には連続5回シリーズの必須受講の研修を行っています。研修は、常勤職員だけでなく、非常勤職員も受講する機会を設けており、嘔吐処理や救命救急に関する対応策などは外部講師による学習をしています。

4)各マニュアルの充実化

「BB・Book (Berry Bear Book=法人クレド)」には、行動指針とするガイドラインを明記し、これをもとに保育実践を行っていますが、きめ細かい手順や具体的な内容を明示した保育実践のマニュアルとしては十分ではありません。法人の方針をもとにマニュアルの内容を充実化し、職員が同じ意識を持ちながら実践につなげることで業務の効率化も期待できます。職員間で意見交換を行いながら園独自のマニュアルを作成し、定期的に見直し・追記していくことが期待されます。

5)事業計画の主な内容の保護者への周知

年度の保育内容や行事計画などは、保護者会、入園説明会、運営委員会などで口頭で説明していますが、保育内容を含めた園の事業計画については保護者に説明していません。今後は、園の方向性について保護者理解や協力を得るためにも事業計画の主な内容の周知が望まれます。また、いつでも事業計画が閲覧できるファイルを整え、保護者周知、理解を図ることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の受審では、常勤、非常勤職員がグループになって取り組み、お互いの意見を聞きながら自園の評価を行うことができました。運営や保育内容を振り返り課題を見つける良い機会となりました。この経験を生かして事業計画等の策定の過程にも職員の積極的な参画を図り共に同じ報告を目指して園運営に取り組んでいきたいと思えます。園児、地域の子ども達、保護者にとって安心して過ごせる場所であるために邁進してまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり